

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果の概要

京丹波町教育委員会

平成31年4月18日（木）に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査における本町の結果の概要についてお知らせします。

【平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の概要】

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日及び調査の対象

平成31年4月18日（木） 小学校第6学年児童（5校：84名）
中学校第3学年生徒（3校：94名）

3 調査内容

（1）教科に関する調査

小学校：国語（14問） 算数（14問）
中学校：国語（10問） 数学（16問） 英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」（21問）
英語「話すこと」（5問）

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

* 教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査で測定できるのは学力の特定の一部です。

1 教科に関する調査結果の概要

《平均正答率（百分率）からみる全国との比較の基準》



	国語	算数・数学	英語
京丹波町 小学校6年生	上回る	やや上回る	
京丹波町 中学校3年生	やや上回る	やや上回る	やや下回る

【小学校】

- 国語 ○領域別「書くこと」、観点別「書く能力」が、全国比プラス10ポイントの良好な結果となった。他の領域（「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）及び観点（「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」）については、全国平均もしくはやや上回る程度の結果となった。
- 「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題（1二）」「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題（1三）」は良好な結果が見られたが、「漢字を文の中で正しく使う問題（1四(1)ア）」はやや課題が見られた。
- 算数 ○領域別（「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」）、観点別（「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」）ともに、ほぼ全国平均程度の結果となった。
- 「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する問題（3(2)）」は良好な結果が見られた。「加法と乗法の混合した整数と小数を計算する問題（2(4)）」はやや課題が見られた。
- 共通 ○無回答率は、ほとんどの問題で全国平均より低く、児童が意欲的に問題に取り組んだことがうかがえる。

【中学校】

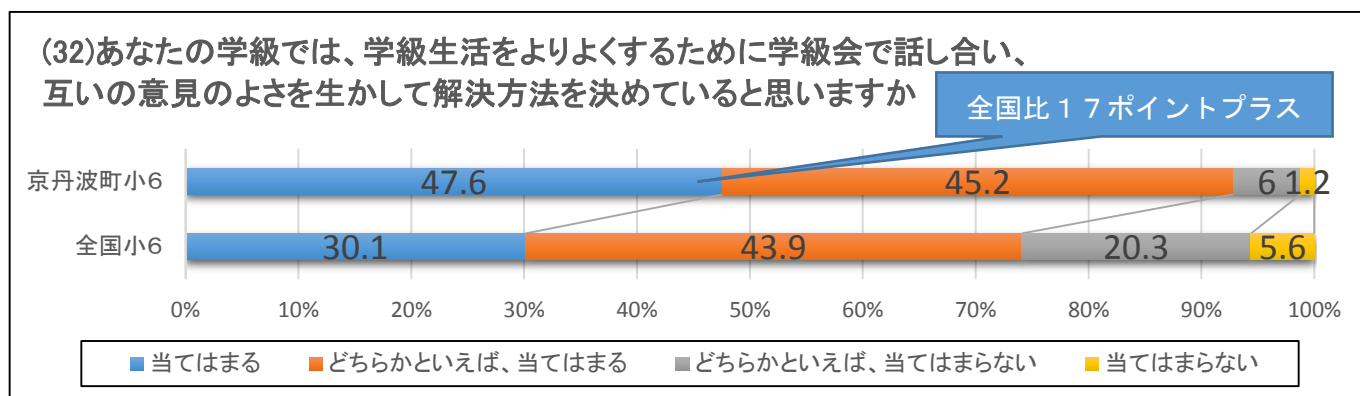
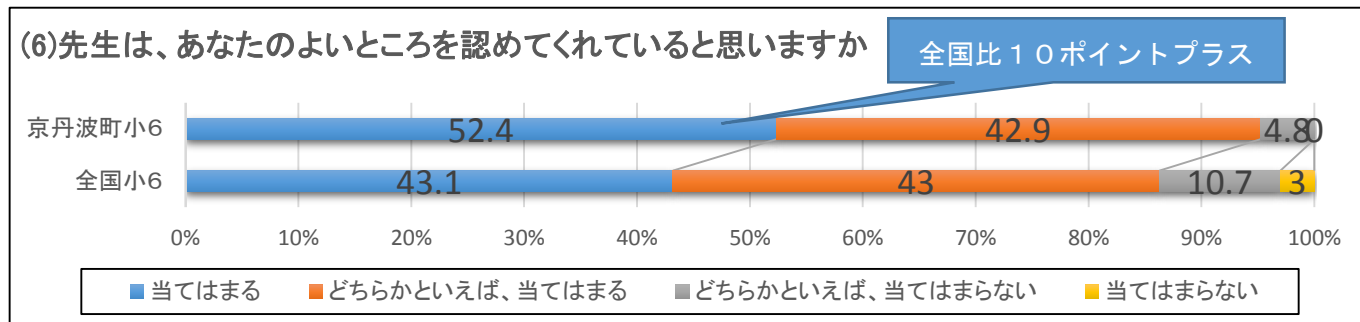
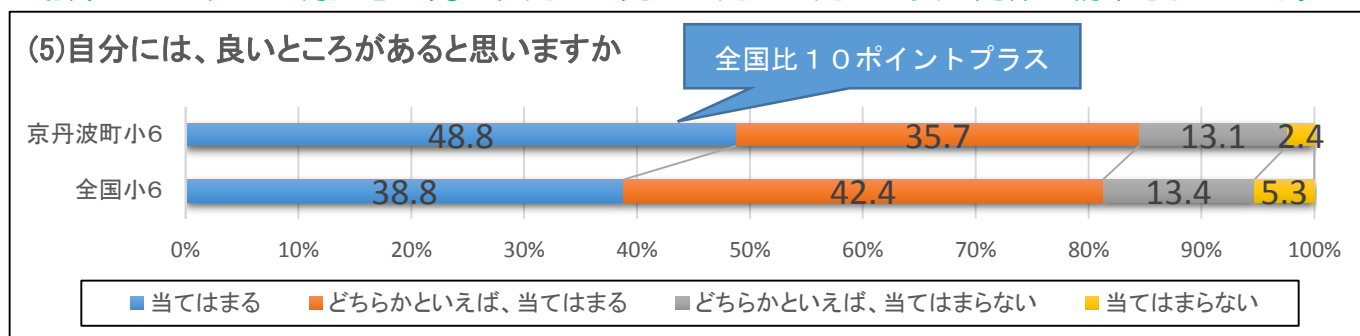
- 国語 ○領域別（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）及び観点別（「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」）ともに、全国平均もしくはやや上回る程度の結果となった。
- 「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題（1二）」は良好な結果が見られた。他の設問は、全国平均もしくはやや上回る程度の結果となった。
- 数学 ○領域別（「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」）、観点別（「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」）ともに、ほぼ全国平均程度の結果となった。
- 設問別に見ても、どの設問もほぼ全国平均と同程度の正答率であった。
- 英語 ○領域別に見て「聞くこと」は全国平均をやや上回るが、「読むこと」「書くこと」についてはやや課題が見られる。観点別に見ると「外国語表現の能力」においてやや課題が見られる。（「話すこと」調査は参考値扱い）
- 「日常的な話題について、情報を正確に聞き取る問題（1(3)）」は良好な結果が見られた。「まとまりのある文章を読んで、大切な部分を理解する問題（7）」「文脈の中で適切に接続詞を用いる問題（9(1)①）」「与えられた情報に基づいて、女性を説明する英文を書く問題（9(3)）」等に弱さが見られた。とりわけ、「学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）を比較して、どちらがよいか理由と意見を書く問題（10）」のように、即興的に自分の考えをまとめ英文を書くことに大きな課題がうかがえた。
- 共通 ○無回答率は、ほとんどの問題で全国平均より低く、上記の課題が見られた記述問題等においても、生徒が粘り強く問題に取り組んだことがうかがえる。

2 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

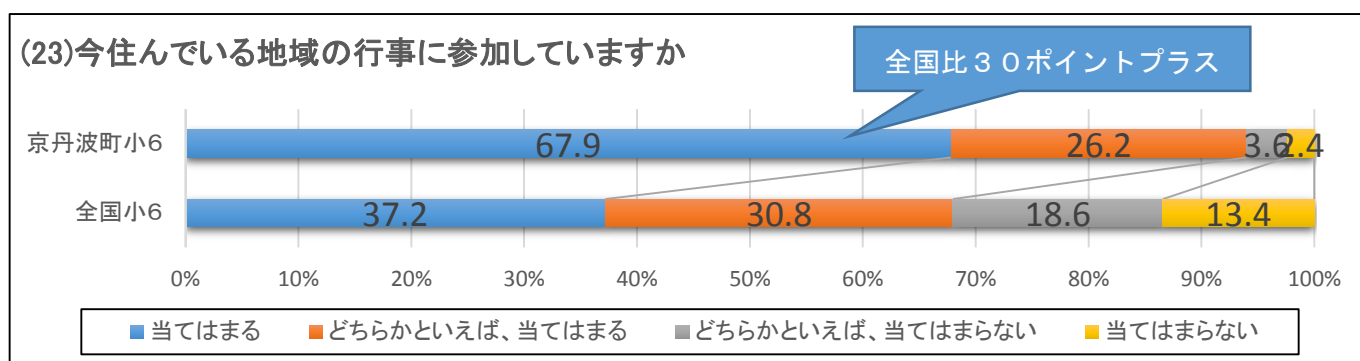
小学校6年児童を対象に58項目、中学校3年生徒を対象に69項目の質問紙調査が行われました。その結果のうち、「強み」として更に伸ばしていきたい項目、改善され「伸長」が見られる項目、今後「改善が必要」な項目に絞って掲載します。

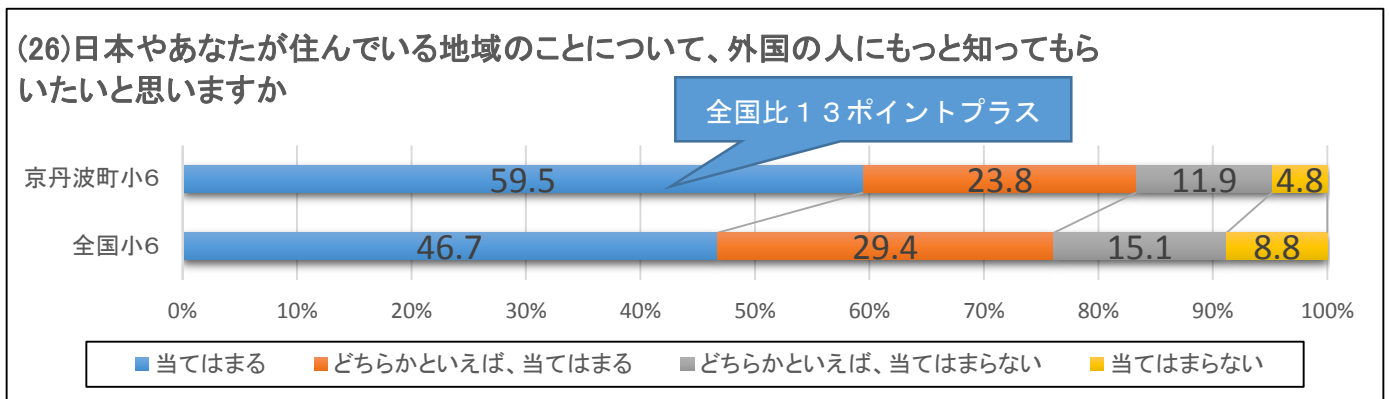
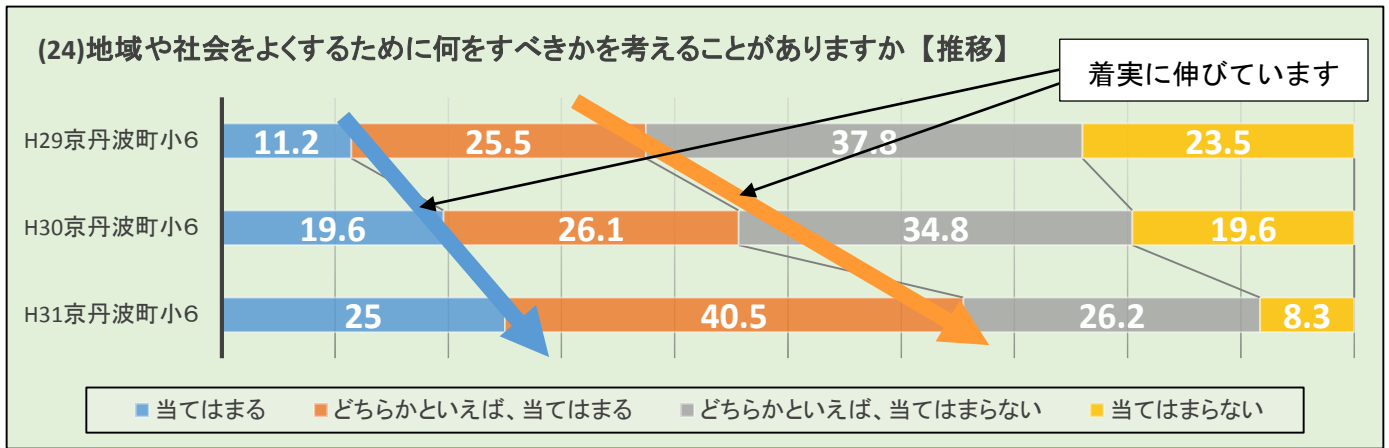
【小学校】

○強みとして、自己肯定感が高く、児童と先生・児童と児童の良い関係が構築されている。

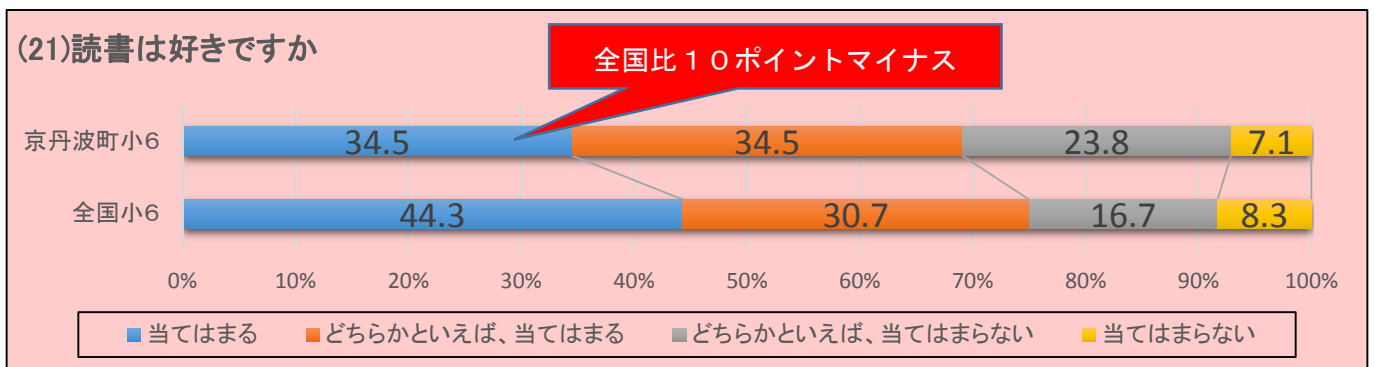


○故郷を大切にする気持や態度において、地域学習や外国語活動の成果がうかがえる。

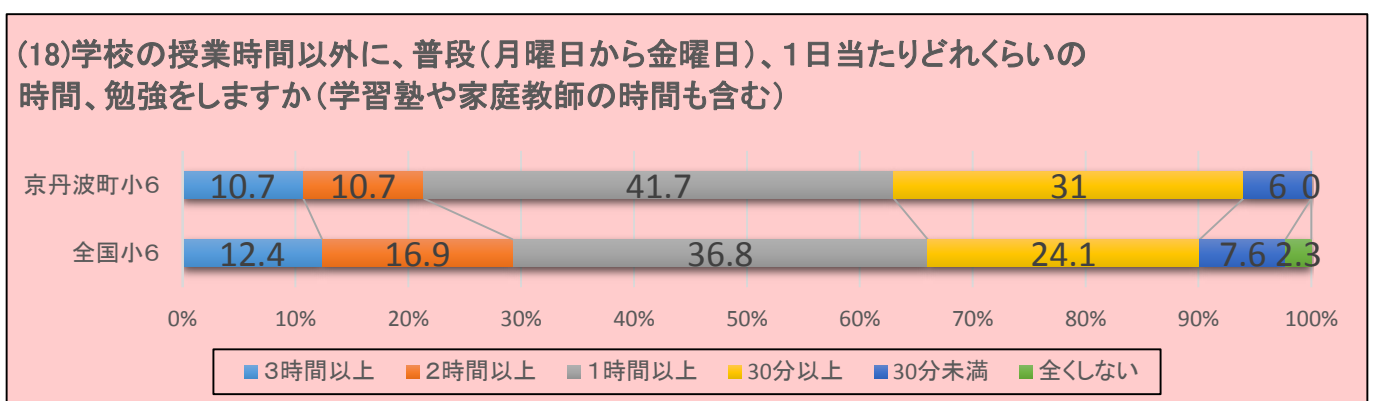




○学力の基盤としての「読書（読むこと）」により親しみ、読書の楽しさを実感し、読書好きになって欲しい。

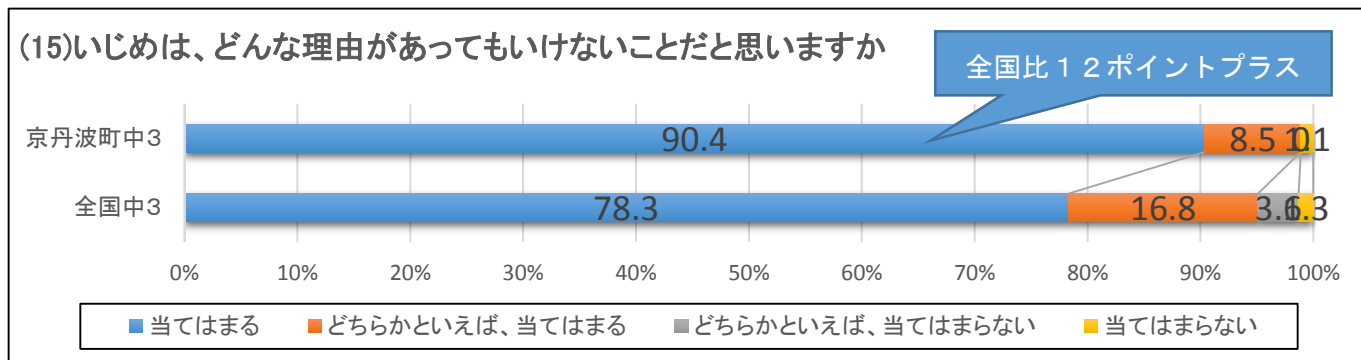
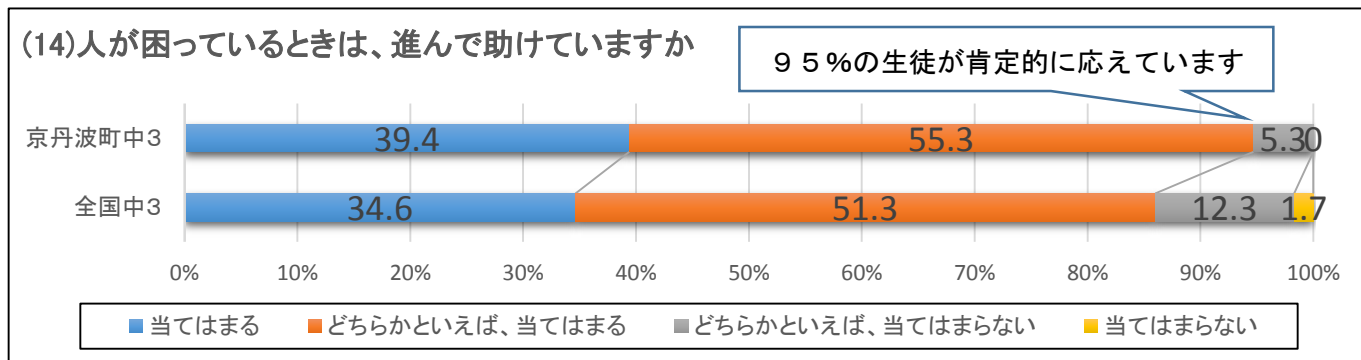


○主体的に学びに向かえるように、「家庭学習」の習慣を身に付けて、宿題以外にも自分で課題を見つけて学習できるようになって欲しい。

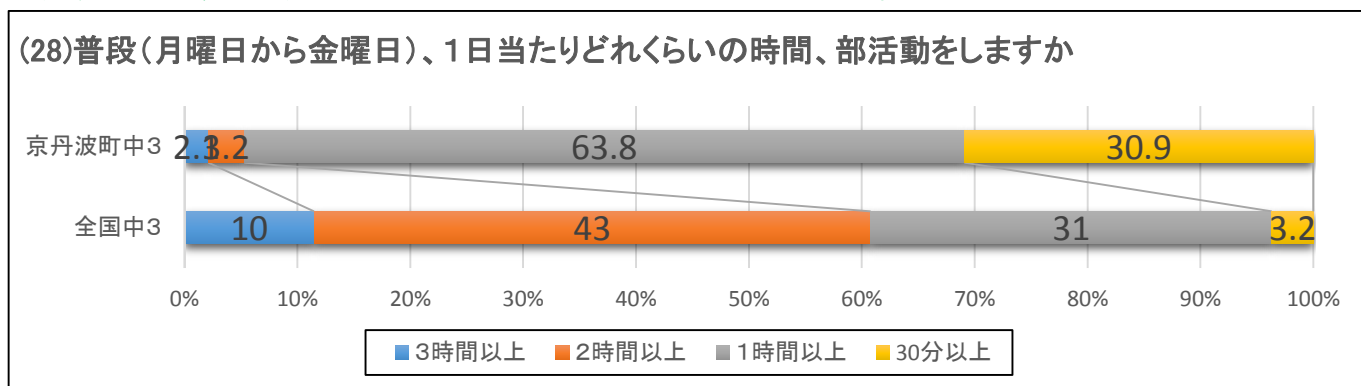


【中学校】

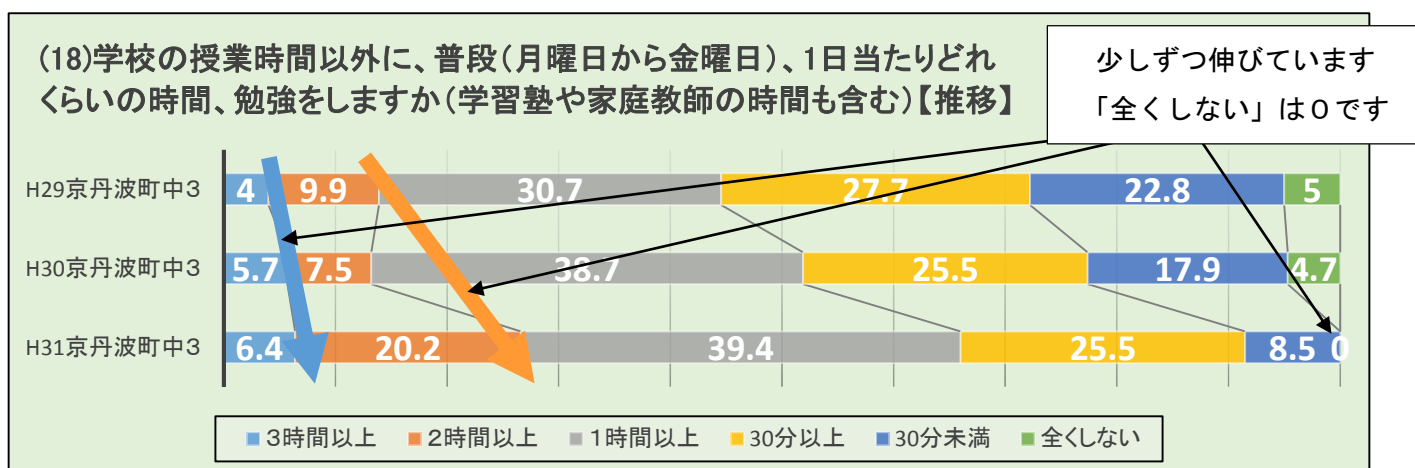
○強みとして、人を大切にしようとする態度が育っている。



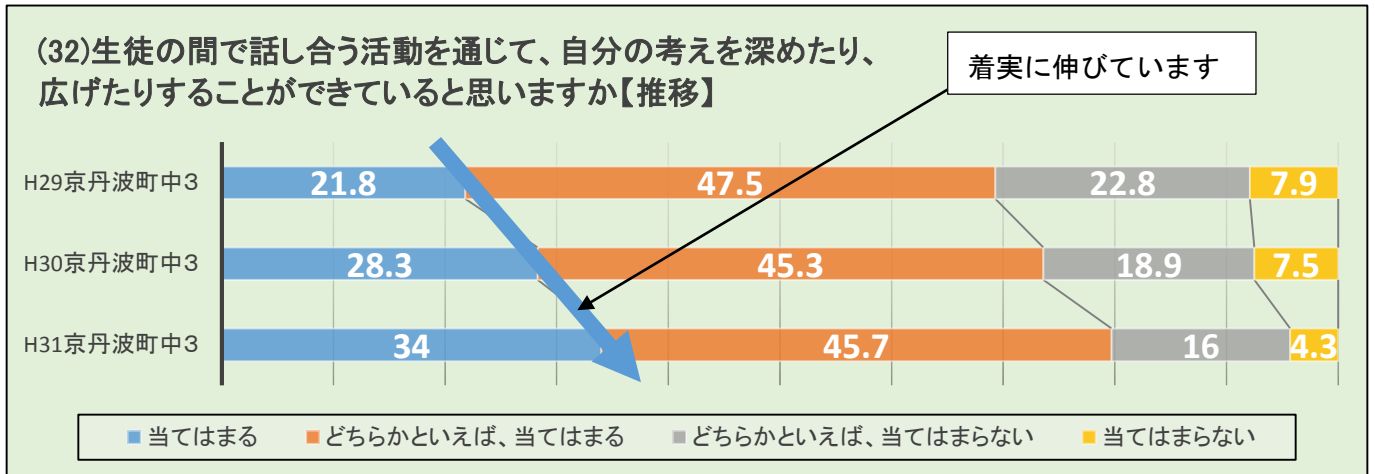
○運動部活動ガイドライン（国）、部活動の指針（京都府）に従って、適正な時間（＝平日は2時間程度まで）で部活動が実施されていることがうかがえる。



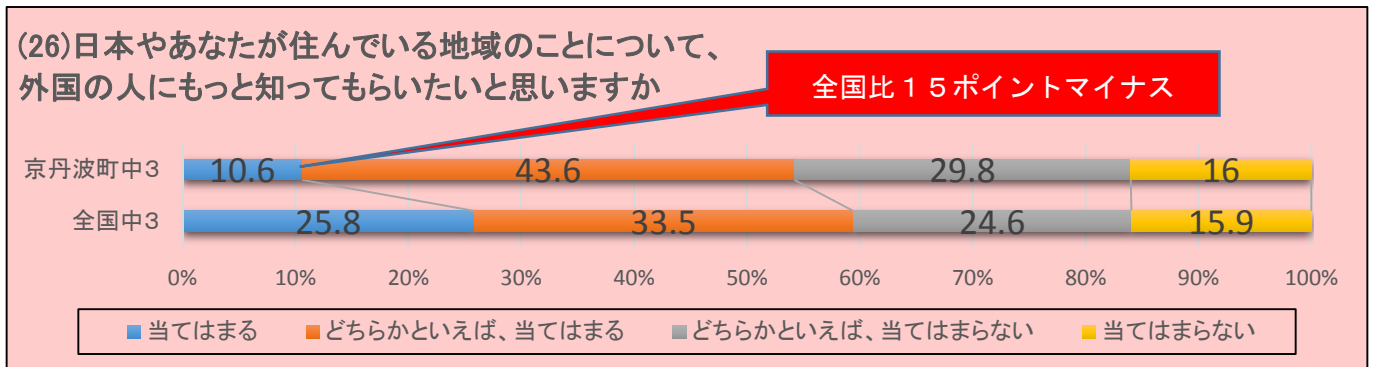
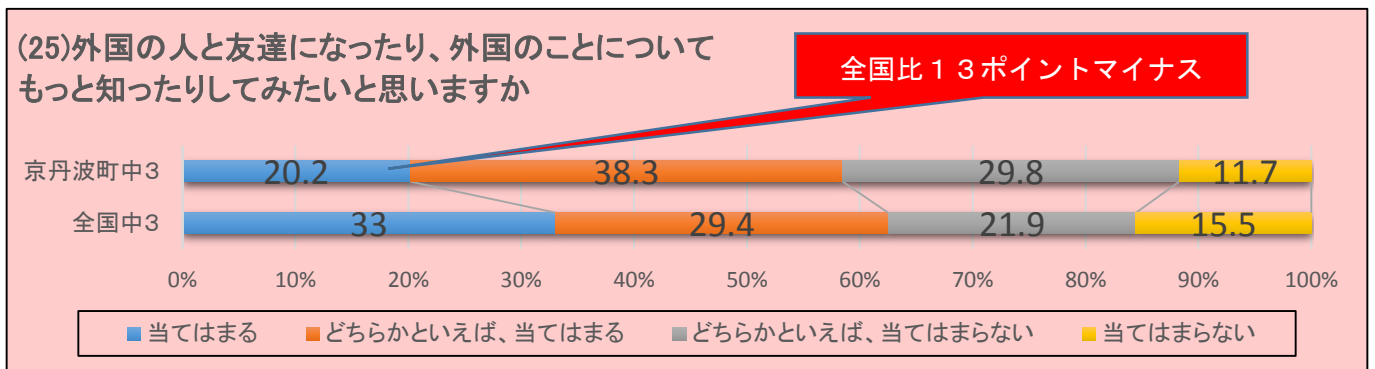
○家庭学習時間が少しずつ長くなっているのが分かり、主体的に学びに向かう態度が改善されていることがうかがえる。



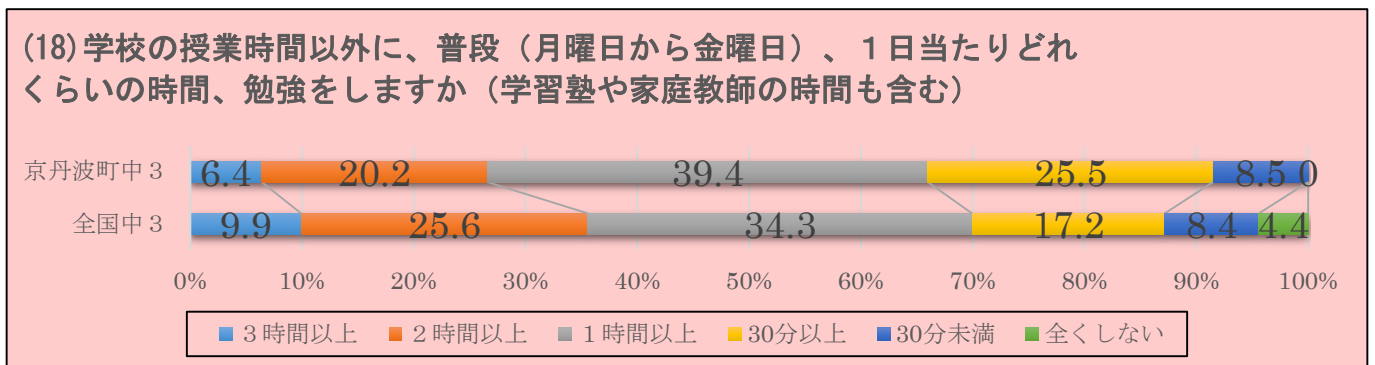
○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進み、生徒が話し合い活動を通しての学び合いを実感していることがうかがえる。



○英語への苦手意識があり、英語を使いたくないという傾向が見られる。英語嫌いを生まない授業改善を進め、英語を使うことを通して英語力を高める態度を身に付けさせたい。



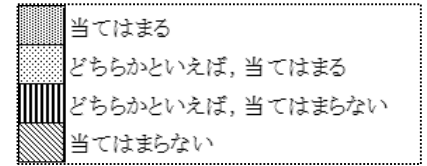
○家庭学習時間は、改善傾向にあるが、全国平均と比較すればより充実が必要だと考える。



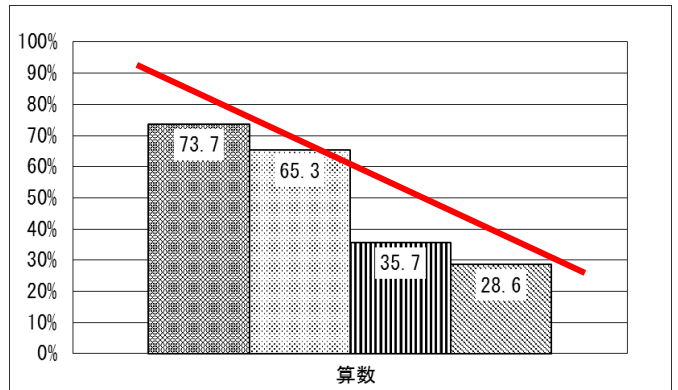
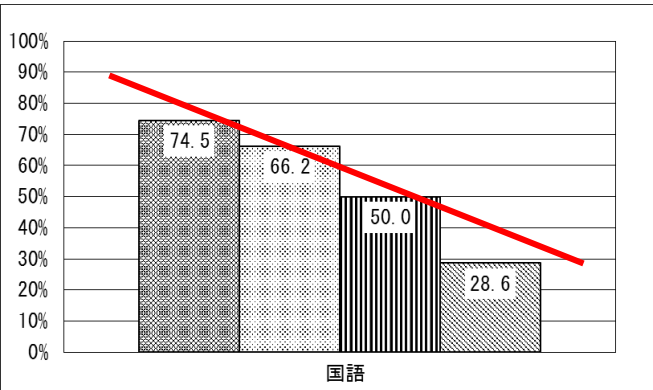
3 正答率と相関が見られた質問項目について

学力は、学習活動以外の様々な要素（生活習慣、興味・関心、学習環境、非認知的能力等）に大きな影響を受けます。質問紙調査項目における回答ごとの正答率を見ることで、学力と相関があると考えられる要素を推定できます。以下に、顕著な相関を示した項目を掲載します。

【小学校】

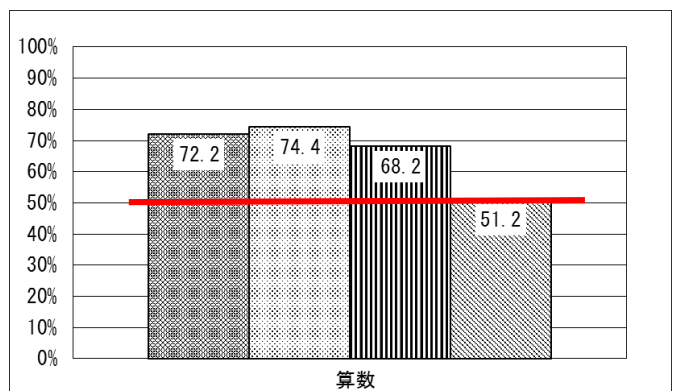
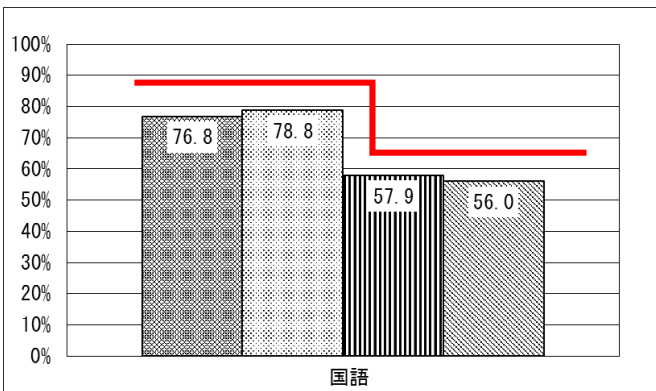


質問番号	質問事項
(16)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか



「人の役に立つ人間になりたい」と考える児童ほど正答率が高い。（国語、算数）

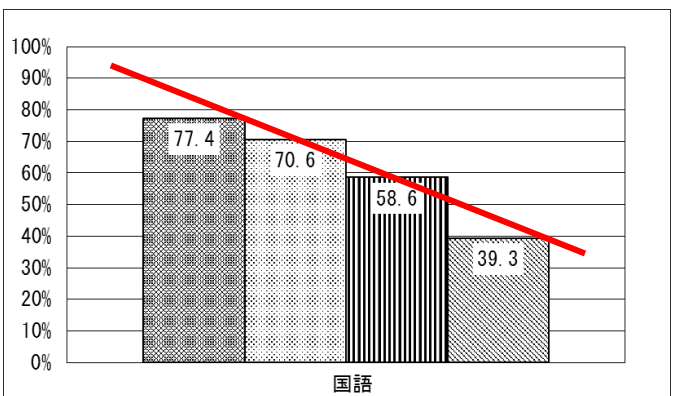
質問番号	質問事項
(21)	読書は好きですか



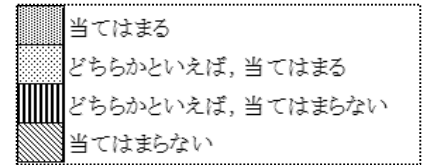
「読書が好き」な児童は国語の正答率が高い。読書が好きではない児童は算数の正答率が低い。

質問番号	質問事項
(41)	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか

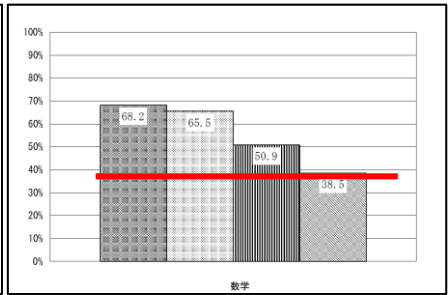
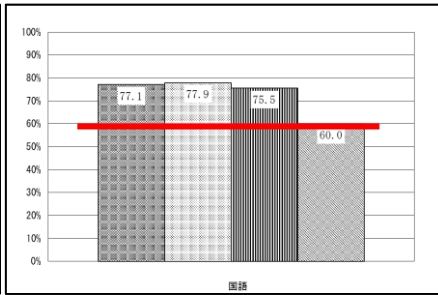
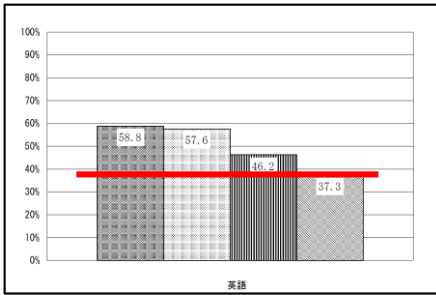
* 国語の授業で学習したことを、普段の生活で活用しようとしている児童ほど正答率が高い。



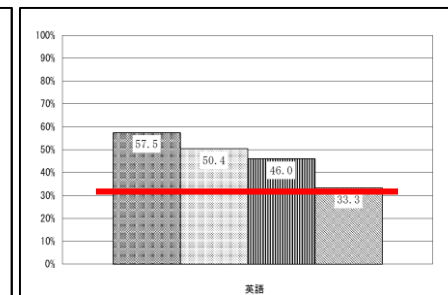
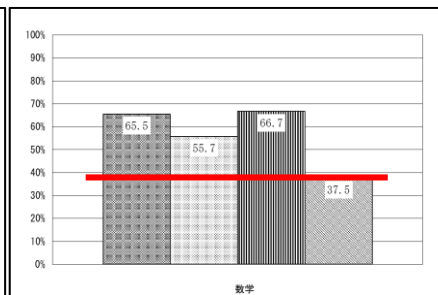
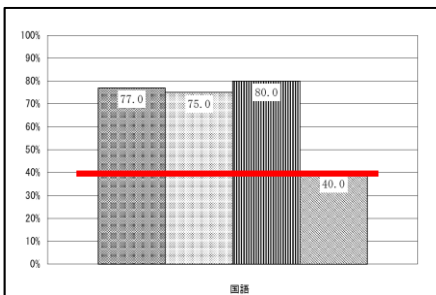
【中学校】



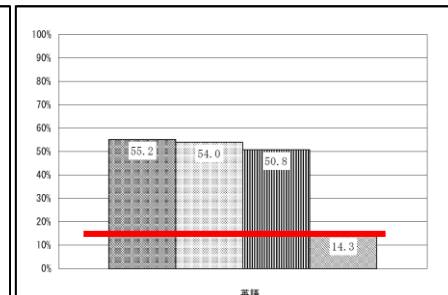
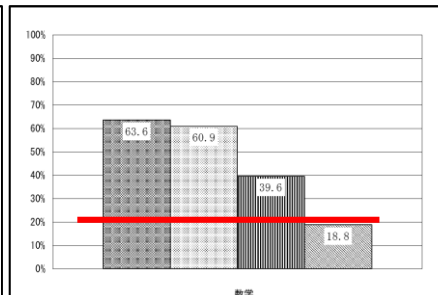
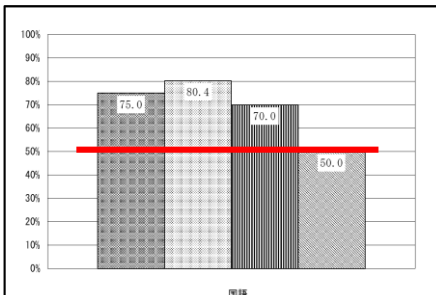
質問番号	質問事項
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



質問番号	質問事項
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

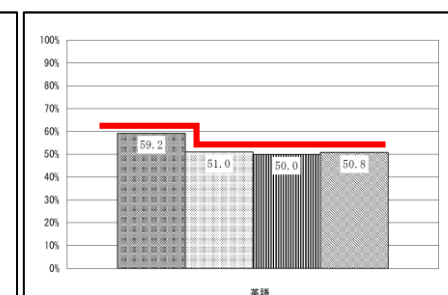
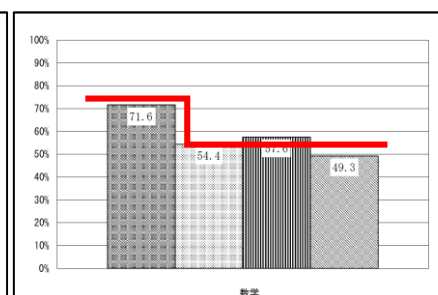
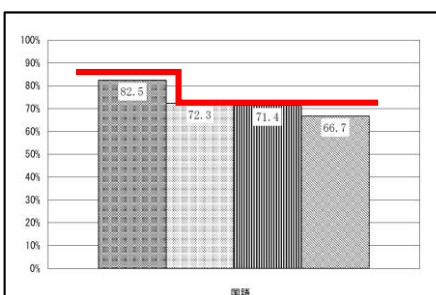


質問番号	質問事項
(13)	学校の規則を守っていますか



自己管理（起床時間、就寝時間）や自己抑制（規則を守る）が弱い生徒は、正答率が低い。

質問番号	質問事項
(21)	読書は好きですか



「読書が好き」な生徒は、正答率が高い。（読解力、読解速度に影響すると推測できる）

4 京丹波町における学力充実・学力向上の取組について

京丹波町では平成 29 年 4 月に、『学びを育む京丹波町メソッド』を町内全教職員に提起して、「ユニバーサル・デザイン」と「授業改善」の視点を踏まえ、児童生徒を学びの主体者にする
ことで学力の向上を目指す取組を続けています。

◎『学びを育む京丹波町メソッド』の理念の徹底と定着を図り、次期学習指導要領に示される資質・能力の育成に向け、授業改善を図る。

- 主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を進める
- 誰もが安心して自分の力を発揮でき、一人一人が大切にされる集団づくりを進める
- 付けたい力を明確にし、「めあて」から「振り返り」まで一貫した指導を展開する
- 単元指導計画に基づき、ねらいを明確にした話し合い活動やグループ学習等を導入し、言語活動の充実を図る

◎教育委員会が各小・中学校との連携を強化し、各校が PDCA サイクルで学力充実・学力向上を図る『学力向上システム』の構築を図る。

- 各校が、学力診断テスト結果等の分析を行い、課題を明確化し、課題解決の方策を全教職員で共有して取組を展開する
- 各校が、授業とつなぐ家庭学習のあり方を工夫し、家庭学習の充実を図る
- 教育委員会は、指導主事の学校訪問、町独自の学力診断テストの実施(12月~1月)、町独自の学習支援員の配置等により、各校の取組を支援する

◎校内研修の活性化を図るとともに、「学びを育む京丹波町メソッド」推進プロジェクトチームによる支援を組織し、『教職員の指導力(授業力)向上』を図る。

- 各校が、指導力(授業力)の向上に向け、研究授業を軸とした校内研修を充実させる
- 算数・数学を重点教科として、「学びを育む京丹波町メソッド」推進プロジェクトチームが各校の事前研究会、研究授業、事後研究会に参加し、校内研修の充実を支援する(令和元年度4校、令和2年度4校で実施予定)
- 南丹教育局と連携し、授業実践講座を開催する(令和元年度2回実施予定)

◎各中学校ブロック(蒲生野、瑞穂、和知)において、幼稚園(保育所)・小学校・中学校の連携を密にし、『学びの連続性』を図る。

- 保幼小中合同の研修会を通して学力実態や生活実態を共有し、成育過程を通じて児童生徒を見守り、学びと育ちを支援する体制を構築する
- 学びのスタイルや指導方法について交流・協議し、「学びを育む京丹波町メソッド」に基づいて、小中の学びを円滑に接続する取組を展開する